

研究課題名	流産・早産に対するリスク因子および治療法の検討
研究の意義・目的	切迫早産、切迫流産では子宮収縮抑制剤(塩酸リトドリン、硫酸マグネシウム)の投与を行い妊娠の継続を行っていき、子宮頸管無力症では治療的頸管縫合縫縮術を行います。しかし、治療を行ったにも関わらず早産に至ってしまう症例もあり、治療効果や早産を予見する因子は明らかとなっていません。本研究は、切迫流産・切迫早産に対する子宮収縮抑制剤の治療用効果や早産に対するリスク因子を検討することを目的としています。
研究を行う期間	「研究機関の長の研究実施許可日」～2025年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2012年1月以降に大阪公立大学医学部附属病院(旧：大阪市立大学医学部附属病院)の産婦人科で、切迫流産・切迫早産対して周産期管理を行った方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 患者基本情報：年齢、身長、体重、既往歴 周産期事象：妊娠回数、妊娠方法、周産期合併症 周産期情報：分娩方法、分娩週数、妊娠出産歴 新生児情報：出生体重、Apgar score、臍帯動脈血ガス(pH、BE、Glu) 切迫流産、切迫早産、子宮頸管無力症の診断時の子宮頸管長、妊娠週数、胎胞露出および胎胞脱出の有無、血液検査(白血球数、CRP)、子宮収縮の有無 子宮頸管縫縮術実施後の子宮頸管長および内・外子宮口と縫縮糸との距離、子宮収縮抑制の投与日数、血液検査(白血球数、CRP)、治療開始後の子宮頸管長の推移および子宮収縮の有無 前期破水時および分娩時の週数
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院産婦人科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪 大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学 (担当者氏名) 栗原 康 電話番号：(06)6645-3862 メールアドレス：gr-med-obandg@omu.ac.jp